

『月刊ちゃき』

第2巻「いつも傍で護ってくれる」



小樽タウン情報WEBサイト「樽樽源」MOOK本
URL : <http://www.public-otaru.info/index.html>

こいつが書いた (* ^ ^) ノ ハロー 小樽のチャキさんです

小樽産天然塩を活用してみせちゃおうぜえ \ (^ ^ *)



創刊号では無事に小樽の海水を汲み上げてきて天然塩を作りだすことに成功しました。僕の真似をして製塩に挑む気になった人も結構いたみたい。出来た塩はやっぱり部屋のディスプレイにするのかな？それとも盛り塩として活用してみる？ 自分の手で作りだした塩であり尚且つ慣れ親しんだ小樽の海のお塩です。これは原材料となる粗塩を1年中ほとんど雨が降らない見知らぬ異国の地で作り、輸入したうえ機械的に浸透膜や電気分解をかけて作りだしてくるといった工業塩などよりもずっと愛着も沸いて魔よけの効果も存分に発揮してくれちゃいそうでしょ。どうですか？そうは思いませんか？ (´・`´) b やっぱり「地元&天然&手作り」

の3拍子でしょ そんなちょっとだけ偉い近海物の小樽天然塩くん。「どうせならば更に付加価値を高めて小樽に大きく貢献してもらっちゃおうぜ」そんなコンセプトの元、この月刊ちゃき第2巻は執筆されることとなりました。さぁ小樽の奇才ちゃきさんはこの本の中で一体どんな手法を見せてくれるのでしょうか。

うほほ (´・`´)ノ オイラに任せとけ！ 目の玉が飛び出るようなエキサイティングなお話を綴ってやるのら。「スーパー民間人」の名に恥じないお話を書いちゃうもんね。期待しててちょ ではでは 早速今回のお話へ！ なう ちえき ら

ちゃきさん式近所の海で汲んできて作った塩の活用法

その 「おでかけ」
まずここへ出かけてみたよ。ここを「見たことがない。全然知らない」という小樽人はそうそうおるまい。言わずと知れた小樽総鎮守「住吉神社」の鳥居前でございます。いつも境内が綺麗に掃き清められていて、社務所に詰めている方々や氏子の皆さんらの愛情と信仰の厚さが伺いしれる光景です。



ちゃきさんがこの住吉神社へ何をしにやって来たのかと言いますとお…ずばり

(; ° °) q 祈禱して欲しい！

そうです (´・`・´) b 自分で作った天然塩を祈禱して貰いにやって来てみたのね。塩は元々魔よけや厄払いの力を持つと言われている品物だ。だから神棚へ備えたり、玄関先へ盛り塩を作ってみたりすることもあるでしょ。それに日本の国技では大相撲というものがある。大きな身体のお相撲さんたちが土俵を清める意味合いで塩を「パッ！」と撒くなんて光景はあまりにも有名です。このただでさえ清く厄払いのパワーを持った塩を神社へ持ち込んで「御祈禱」を受けてしまおうってんだから尋常じゃありません。もしも無事に御祈禱を受けられたならば、これ以上の厄除けパワーを持った塩は小樽中のどこを探しても存在しないからな。ぐふふ (-+) にやり

読者一同：

おお！ ちゃきさんそれは名案！！

お前も本気でやれば出来るじゃねえかあ！

撫で撫でてやるぞ (*)/(´・`・´) ふによ (嬉)

ただぁ～この計画には大きな障害があるんです (´・`・´;) 頓挫するかもな…。その障害というものはですね。「塩なんて物のご祈禱はお断りだよ」といったお返事が言い渡されること。こんな返答が神社から返ってきたならば、その時点で全ての計画が強制終了となっちゃうのね。こればかりは僕が代わりに祈禱するってえ～わけにもいきませんしどうにも… f(´・`・´) ううむ。「自力祈禱」ってのはやっぱり無理がありすぎる。とはいえ海水を汲み上げるところから始めて製塩を行い出来上がった塩を活用するまでといった一連の流れの全てを「オール小樽」で完結したいと考えた僕としては、たとえ北海道神宮などの他所の土地に在する神社において御祈禱いただけただとしてもちょっとこれは本望ではないわけですよ。とはいえ住吉神社としても多分「塩の祈禱」の前例&前歴は無いだろうしい…。ちゃんとお祓いを受けられるんでしょうか…？ もしも取り合ってすらくれなかったら…大丈夫かなぁ…？ こいつぁ～不安だ。かなり本気で困ったぞ。ふうむ (* *) 弱ったなぁ おろおろ…。

(* ^ ^) b あっ！ そうだ！！

「 困った時の神頼み 」って言うじゃん

こんな時は神社へ行こうぜえ！！ ナイス アイデア

あ… いかん… 今はその神社に来ていた上での困り事だったのだけ…。駄目だこりゃ。八方塞がりって奴だぜ…。 がっくり & とほほ

膝を折り大地に伏すちゃきさんの姿

オイラはどうすれば…

ええい！ オロオロ悩んでいても始まらない！ やっぱりここは住吉の神へと直訴して何とか願いを聞き入れて貰おうではありませんか！ 叩けよ、さらば開かれん！！

(; > <) q 神よ！ どうか迷える子羊@ちゃきさんをお救いください

余談

「 迷える子羊 」を救うのはキリスト様ではないかと…。流派そのものが違っている気が…。 まぁ良い、とにかく神の救いを求めてお話を続けてみましょう。

その : 「 相談してみよう 」

(^ ^) よし！ とにかく相談だ。まずは社務所を訪ねてみよう。住吉神社の社務所は外人さんが見たら感激しちゃうような畏怖堂々たる和風建築。道内にある木造社務所としては最大規模なんだって。歴史ある小樽の町ならではの自慢な建築物にな



っているんだよ。「 静 」なる美の他に「 調和 」の文字が思いだされるような美しさが感じられる建物。荘厳な雰囲気をもつ本殿と比較した際には、一見すると地味とも感じられてしまい見過ごされがちな「 日本の美 」が沢山詰まっている。これは屋根上に載せられている瓦装飾などを眺めても



感じる事が出来るはずだよ。瓦職人さんの技がいきる装飾だ。これらの造作に目を留めてゆけば住吉神社がいかに格好良い作りの建物であるのかがすぐに判って貰えるはずなんだ。けれども各言う僕も若い頃にはこういった装飾の全てが単に「古くさい物」としか感じられなかった時代が…。その後、自分も歳をとり少しづつ周囲に存在するものの価値がわ

かるようになってくると、これらが決して「古くさい物」などではなく「守られるべき伝統の美」であることが理解できるようになりました。皆さんもいつかのんびりと時間をとられ、ここ小樽総鎮守住吉神社を訪ねてみてください。きっと久しく忘れかけていた日本伝統の美を再発見することが出来ることでしょう。それでは また…。

って 違うだろ！ (; ° °) / つっこみ！

誰が「日本の美再発見 in 小樽」のナレーションしろって言ったんだ！

相談だよ 相談！！ \ (` ` #) / 早く社務所行ってきなさい！

いやぁ～面目ない ((` `) つい……。じゃあ行ってくるね。てくてく…。
(その後のチャキさんは社務所の窓口へとたちました)

(; ^ ^) / 『 すいませえ～ん 塩の祈禱をお願い
したいのですが無理でしょうか？ 』

社務所の窓口に住居の方の表情を伺うにやはり「塩の祈禱」の前例は無いらしい…。やっぱり無理なのか？？？ 以後のチャキさんは手にした塩入りの瓶を見せたくえ、小樽の海水を汲んできて自力で努力し作った塩であることなどを説明してみます。決して怪しい代物を持ち込んだ覚えはありません。どうか… どうか…。



ともかくにも本殿前へと到着です。早速 建物左手にある入り口から中へと入ってみました。ここで御祈禱を受けることになるんだね。奥行きのある本殿は厳かな雰囲気



が漂っていて素敵だよ。「凜」とした雰囲気って奴かな。ここでは沢山のの方々が厄除けのお祓いや、七五三の宮参りをうけられてきたのでしょうか。読者らの中にも思い出の残る方がいるかもしれないね。僕が持参した塩もこれからここで清め祓いのご祈禱を受けることになるんだ。**楽しみ** という台詞は適切ではない

のかもしれませんがやっぱりちょっと楽しみです。神主さんはどんな感じに祈禱の儀を執り行ってくれるのでしょうか。時間もかかるのかなぁ？ こりゃワクワクですな

その : 「御祈禱を受ける」

程なくして神主さんが登場。僕が手渡した塩瓶を丁寧に神前へと運び供えてくれます。その後、一度席を外した神主さんが滅多なことではお目にかかれそうもない古式ゆかしい和的正装を身に纏い直して再登場！ 厳かに儀式が始まります。その光景は実に

(; つ ° °) つ))))))) **か か 格好良いかも**

しかも祈禱の始まりには大きな太鼓が打ち鳴らされたりして実にエキサイティング。

どん どん どん **ど ど ど ど ど どお~~~~**

W (° °) W **おお！ 祈禱ってなんだか凄いぞお！**

この後は「**祓いたまえ**」「**清めたまえ**」などといった神様への願いの言葉が続きます。広い本殿の中に響き渡る神主さんの声がこれまた格好よい！それに何という名前の物なのかも判りませんが白い稲妻型の紙がついている棒を パッ！ パッ！と振りかざしてくれたりするんだ。文字で書くと素っ気ないけれど実際にこうやってお祓いをしてもらったらとても気持ちが晴れやかになったよ。

あぁ・・・ なんだか災難を祓いのけて護って貰っちゃてる気がするぞぉ

(*) 神様ぁ 全てが清められ平穩に生きてゆけそうです

さすがに御祈禱いただいている最中はチャキさんといえども大人しくしています。写真撮影もなしね (´・`´) b 当然だろ。こんな文章を書き綴ってはいるけれど、当時の僕は真剣そのものなのですからね ゆえに神主さんの姿画像はありません。そして祈禱の全てが滞りなく終了すると預けてあった塩が神前から僕の手元へと戻ってきました。その際には色々な供物も一緒にいただいた。そして供物が入った袋を手渡された時には神主さんから以下のようなコメントが伝えられたんだ。

渡した供物の中には矢が入っております。厄除けに効果がある物ですので玄關そばにてお使いください。また祈禱をさせていただいた持参のお塩にも同様の効果があると思って構いません。災いから身を護ってくれる力を授かったお塩です。

おお！ (; ° °) 神の力が宿る塩 になりましたか！

先程までは片手で握って持ち歩いてきた代物でしたが、急に両手で持ちたい気分がMAXになりました。大事にします！！ この後のチャキさんは神主さんへ無事に御祈禱いただいたお礼を伝えて住吉神社を後にします。さきほど頂いた供物の袋・・・中身は何が入っているのでしょうか？ 気になるよね () チラ チラ



っというわけで帰宅後は早速袋を開いてみたよ。祓い清められた塩との記念撮影もかねています 中からは説明を受けていた矢の他にもお神酒や豆など色々なものが入っていた。こういった品を帰りがけに持たせてくれるとは露程にも期待していなかったの素直に嬉しい 中身はそのどれにも本来供物としての意味があるのでしょうかねえ・・・この辺りのことは知識が乏しく何がどうという事が全く判りません。とはいえこれらも折をみて大事に食したり飾るなどして活用してみようっ

その : 「活用しちゃおうぜえ」

さて無事に塩の祈禱を済ませてきたチャキさん。これをその後どのように使ったかと言いますとぁ……。こんなミニサイズの保存瓶に詰めてみました。この小瓶には紐がついているのでストラップとして使うことが出来るんだ。塩は元々が厄除けの効果の期待



できる物。これにさらに神様のご加護がうまれる祈禱を済ませた塩を詰めた携帯用ストラップです。そうです！察しの良い方ならばもうお気づきでしょう。これは新しい形の「御守り」なんだよ。旧来から存在する「御守り」はデザイン的に携帯電話などに常時ぶら下げて歩くにはちょっと不向きだと思うんだ。ファッションに頼り若者であれば尚更旧来の御守りデザインを敬遠してしまうんじゃないかなぁ……。でもこの「小樽天然塩御守り」ならばデザイン的にも可愛らしいし大変さり

げなく持ち歩くことが可能です。携帯電話は今や誰しもの必需品でしょ。そこにぶら下げておける御守りならば、何処へ出かけるにしてもいつも住吉神社の神様が共に在りつづけて身を護ってくれるんだ。いわゆる肌身離さずの「御守り」ってことだね

どう？ 凄い「御守り」作っちゃったでしょ

いよっ！ チャキさん日本一 \('`*)/

その : 「誰が作るべき？」

正直いってこの御守りが世に誕生すると人気や支持もそれなりにあり、ある程度の個数がコンスタントに売れ続けてゆくんじゃないかなと予想しています。ただしこの御守りの作成にあたっては特別な職人技や工場の建設などは必要がなく、その活用方法が食用品としてではないため安全面での制約も受けません。勿論法的な規制も一切関与しない代物さ。製塩作業から瓶詰めに至るまで、さして危険な作業も伴わない上に塩は腐敗しない特性をもつため在庫管理も容易です。こういった製作 & 管理過程の簡便さを考えると、小樽市内に在する授産施設に塩ストラップの製作を委託することも可能だと思うんですよ。授産施設とは身体に障害のある方や諸々な事情によって

就労に際する高度な技術習得が難しい方々が働く場所。つまり社会的に弱者と呼ばれる人達の働く場所ってことだよ。こういった授産施設でも多分この御守りの作成は可能なのではないかなあ…。この「小樽天然塩御守り」を住吉神社で販売していただき、その商品供給の一切を授産施設へと委託する。これは恒常的&永続的に継続することが可能な弱者に手を差し伸べる行為であると考えられるでしょ。神は万人の味方ではあるけれども特に弱者の味方であるはずだもん d(^ ^*)



なんとか実現させて欲しいと感じます。毎年のお正月には沢山の方がここ住吉神社へ初詣に訪れる。神様へ旧年中におこった出来事の報告を…または今年一年の目標や願いを伝えるためにと考えてみんな足を運ぶんだよね。その際には御神籤(おみくじ)や絵馬などを買求めることもあるはずだ。そんな選択肢のひとつに今回僕が作りだしてきて提案した品「小樽天然塩御守りストラップ(祈禱済)」

が並んでくれると嬉しい。小樽中のみんながいつも肌身離さず神社の御守りを持ち歩く。そしてその光景が同じ街に暮らす社会的な弱者たちの“暮らしや働く喜び”といった気持ちを知らず知らずに支えてくれる。僕はそんな街に暮らしたいんだ。きっと今回お世話になった住吉神社の神様もそんな民を護り続けたいと感じてくれるはずだよ。神様は高台のうえにある社にいるの？それともお空の雲の上だろうか？ 仰ぎ見るその場所に向かい皆でこの話の実現を信じてみようよ。だってそれが「信仰」というもののはずなのですから…。

あとがき(ある意味一番伝えたかったこと)

これで2巻はお仕舞いです。今回の内容は面白かったですか？ \ (^ ^*) 創刊号では海水を使って塩を作ることを綴りました。あれはこの2巻で書いた内容を皆さんへ伝えるための単なる布石です。前知識も無くいきなり塩を持ってきてストラップを作ったところで話が見えませんかからねえ。また創刊号と2巻の2冊は「街興し」の手本となるように作り上げられています。実現するかどうかは別として、仮に住吉神社の中で塩御守りストラップが販売されたらとしよう。勿論その際の製作委託先は授産施設という設定だよ。これは多分それなりに売れてゆくことでしょう。ただしこのストラップは住吉神社以外の場所で販売しても一向に構わない物なのです。代表格は小樽商科大学内の大学生協。こちらでは多少の仕様変更を施したうえ販売すれば良いんだ。商大ブランドの一品として充分通用するはずだもの。住吉神社がわで売られる御守りには住吉神社の本殿などに記された家紋のようなマークをいれた木札を御守りに付

帯させる。商大生協がわは商大の校章や「商大」の文字などを記した木札を御守りに付帯させれば良いだけの話だもの。それにね、塩は読み方を「えん」とも読むでしょ。「えん」＝「縁」と絡めれば小樽商科大学で販売される御守りストラップは大学との「縁」を取り持つご利益があるとも言えるはず…。そうです（´・`）b もうお分かりですね。毎年やってくる小樽商科大学の受験生に買ってもらえば良いんだ入学を果たす人間の数と受験志願してくる人間の数では後者の方が数が増すのですからターゲットとしては大きいものね。受験要綱を送付する際に「親御さまへ」とか書いた別紙を用意して「こんな御守りがありますがいかがでしょうか？」と書いて同封しておけば猛烈に売れますよ(笑) 受験生の親心パワーというものは実にすさまじいものがありますからねえ…。はは。また先ほど僕はこの本に綴ったことを「街興し」とであると書きました。



僕の考える街の興し方というものは小樽の外から「お金」を調達し、以後その「お金」を市外へと出さない努力をするものです。つまり小樽市内をお金で溢れさせることこそが「街興し」。迂闊なイベント事を頻回に仕掛け市民を集めてきては互いの間でお金を闇雲に受け渡しあわせる…。そんなことを推奨すれば消費税分をただただ国に謙譲し続けさせてしまい市内に存在する金銭をあっという間に目減りさせてしまうことでしょう。そのような様は「街興し」とは程遠い光景だと思っています。では何故ゆえに今回書いた物は「街興し」と言えるのか??? 神社や宗教団体などは基本的に課税対象とはならず無税な組織だったはず。つまり御守りを購入しても税という形では市外へとお金が流出してゆかない。対する小樽商科大学の生協はどうかといいますと、現在の大学は札幌からの通学生徒が9割だそうですからあ…たとえば100%の学生が御守りを購入したとしても90%は外貨の獲得行為にしかならないはずでしょ。たとえこれに消費税がかかり市外へと流出したとしても、大学の雑収入予算として多くはそのまま小樽市内にとどまることになるはずだ。これは大変効率が良い。しかも地元の海水から採れるものを活用しているし、神社が自分で販売する代物ならば祈祷に要する初穂料そのものが不要となるものね。つまり生産コストが非常に安く押さえられているうえ、付加価値は高く販売が可能ってことだよ。販売物のサイズがとても小さいし流通を考えたって全てが小樽市内という非常に狭い範囲での移動だけで完結するように構築してあるのも味噌。話題性も充分だし流行ると土産物屋などの店先でも似たような物が登場してくるかもしれません。ですが基本的な販売窓口は神社に限局が出来るためある意味「専売」の状態が可能です。さらに話中で

も語りましたが塩は保存が容易であり在庫管理が楽なもの 保存に際して要する倉庫スペースも極小ですむわけですし余剰在庫に頭を悩ませてしまうなんてこともほとんど皆無だろう。そもそも材料の海水なんて通年安定供給で枯渇がありえません。こういった物を「**強い商品**」と言うんじゃないかなあ？ 北海道大学で独自ブランドの酒を販売するようになると、他所の大学もほぼ同様な品を作ってくるものさ。でもこの「小樽天然塩御守りストラップ」ばかりはそうはいかない代物だ。

北海道大学 = 札幌 = 残念ながら海を持っていない

小樽商科大学 = 室蘭工業大学とかも = 海をもっている

その土地どちの独自性を生かして互いに競うほうが楽しいぞ（´・`´）v ピース
今回は神様が社会的弱者サポートに一役買う形で書きあげてみました。これは僕が現在の職を**たまたま**「看護職」としているといった部分も大きく影響したと思われる。看護的センスで街を作るとこうなるんだ。商売人的センスで街を作ろうとするとどうしても真っ先に「俺の店が一番儲かるように！」といった発想が前面に出やすくなってしまふものでしょ。それが商売人気質でもあるのだし、誰しも生活がかかっているのだからそれ自体は悪い気質ではないよね。だけれど…やはりそんな発想ばかりが溢れてしまつては寂しい世の中になってしまうだろうて…。

それとね、「創刊号」と「2巻」の2冊で僕が何をしたかを区分わけして眺めてみてほしい。（^ ^*）

1次産業(農林水産業)

塩の存在を海から獲れる魚などと同類と捕らえて考えてみれば立派な1次産業的資源です。これを僕は採取してきた。

2次産業(加工業)

食品としての利用が可能かどうかはイマイチ不明ですが、直煮製塩法を用いて加工を施し「塩」単体で取り出すことに成功しています。

3次産業(販売・流通・サービス業)

販路や流通の簡便さはもとより、受験生の親心への配慮(サービス)も記してみた。

4次産業(これは元々存在しない産業分野です)

5次産業(これも元々存在しない産業分野です)

6次産業(農林水産 + 加工 + 販売・流通・サービス の全てを統合)

4、5次産業は存在せずいきなり6次産業という分野が登場する。これは「6次産業」という言葉自体が1～3次産業の数字部分を全て足し算してみせて作りあげた造語だからだ。つまり1次産業～3次産業までの全てを一手に引き受ける構造を成すかたちでの産業構造を意味するのね。昨今の社会では地方経済にあってはこの産業の6次化が理想だとうたっている向きがある。これは間違った思考だ。確かに今まで1次産業分野に従事した人は現金収入が薄く、加工や流通分野で値がつりあがってゆき実際の利益の大半はこの2次および3次産業がわの者が手にする構造になっていた。これを1次産業がわの人達が2次と3次までをも一手に引き受けて6次化すれば確かに旧1次産業従事者らの現金収入は増大します。でもかわって既存の2、3次産業に従事する者らの収入が著しく低下し崩壊を招きかねない。理想の形は元々2次、3次産業分野の方々が1次産業分野の人達に対してもっと相応な利益分配を行ってれば良いだけのことだよ(富の公平分配の精神)。小樽のように1次産業、2次産業、3次産業のすべてが揃っている街では元々街そのものが6次産業構造になっている(1次産業は小さいけどね)。どこの分野を消しても同じ市内に暮らす誰かの生活を脅かすことになるだろう。そんなことを目指してはいけないのではなかろうか…。やるべきことは街という名の「既存6次産業」そのものの機能を強めなければいけないはずさ。今回僕が書いた文章は街(小樽市)というひとつの産業を強めつつ社会的弱者サポートをも一緒に実現しちゃおうといったウルトラC技 の一つだよ。新しいニーズ(職)の創出！これに伴う雇用の安定化！得られる富の分配！どれも理想的社会に必要な手腕のひとつを記したに過ぎません。あ！勿論ですがそんなウルトラC級の技で仕上げても、そのどこにも新しく巨大建造物を建てなきゃ一歩も前に進めないと主張する「箱物行政」的な部分は全て排除した内容になっていることにも注目しておいてね(´・`・´)b 今後の小樽に求められる行政手腕・センスというもののプチ手本にもなってるはずだぞい

7次産業

しかも1次～3次、プラス6次産業域までの思考を馴染みやすい例を示した上でコミカルに書き記し本やインターネットを使い民へと知らせ教育してしまう。6次産業って何かをつまらない形で伝える人はいくらでも居るだろう。しかも「1次産業の6次産業化がベストだ！」と主張するような語りです。ですが本当にそれがベストですか？僕はこんな既存の「正しい」に対しての反論意識も含めつつ楽しい読み物の形に整え説明を綴ってみました。これはもう6次を超越する分野の業だ。つまりこれはあ…

(; ° °) q **7次産業！** っなわけないか(笑)

っというのは冗談としてもこういう思考の訓練を楽しく行うのは大切なことだよ。そういう点では月刊ちゃき創刊号と同2巻はとても役にたつはずさ。沢山の小樽市民に読んで貰いたい。そして広く「大切にすべき考え方」ってものが何なのかを自分自身でみつけだして欲しいと感ずます。「月刊ちゃき」は導きのある小樽本 しかも話しの中には途中に神様の存在が記されている… っということはぁ つまりい…

『 小樽版聖書 ？ 』

いや それは **違** うだろ d(´・`´) b かなり間違ってるぞ 笑う気にもならん
っというわけで、今回の本はここいらでお仕舞いとしておきましょう。「聖書」とか言い出して **悪ふざけが過ぎる！** と怒られないとも限らないしな。また次回作が出るかどうかはいつも通りに『 **謎** 』という形での終わりかたにしておくよ。気が向いたらまた何か書いて趣味製本してみます。えっ?! ストラップ販売? 出来るけどオイラがやってもつまらんべ。そこが『 **スーパー民間人** 』たる者の粋なところじゃ。.:*:

それでは皆さん さよぉ~ならぁ~ (´・`´)ﾉ SEE YOU NEXT

小樽のチャキさんより

.....

=====

||
|| 月刊ちゃき第2巻は楽しめましたか?
|| 皆さんも**住吉神社天然塩御守り**が欲しいと思えたかな?
|| 神様を身近に感じて生きる素敵さを学んでくださいね
|| それと街の未来はキミたち若者にかかっているのですよ
|| 他所の町に真似られたり、手本にされて初めて一人前ですからね
|| しっかりと勉強をして立派な小樽市民になってくださいな
||

||
||
|| 皆さん わかりましたか? (´・`´) どう?
||
|| \)
||

||
|| () () () はぁ~い 判りましたぁ チャキさんって
|| () () () 色々考えるのね 頭の構造どうなってんの?
||

これで全部おしまい

@@

話中に登場した住吉神社に纏わる情報として

名称:小樽総鎮守「住吉神社」

住所:小樽市住ノ江2丁目5番1号

電話番号:0134 - 23 - 0785

問い合わせ時間帯:午前9時～午後6時まで

公式サイトURL: <http://www.otarusumiyoshijinja.or.jp/>

月刊ちゃき

第2巻「いつも傍で護ってくれる」

2011年2月25日初版第1刷発行

著者: 小樽のチャキさん

発行者: 小樽のチャキさん

発行所: 救樽会

ブックデザイン: 小樽のチャキさん

写真撮影: 小樽のチャキさん

印刷: ちゃきハウス

製本: ちゃきハウス

発行資金: 樽樽源アフィリエイト収益を使用

不足資金補填: ちゃきさんのお小遣いより確保



フリースペース

感想を書き込む & 告知物を貼るなど好きに使ってね 丶(^ ^*)